

# 数量化できない 「現場力」の不思議

震災後も円高が続く不思議。  
いったい日本の何が評価されているのか。

グローバルな視点と資金の動きから方向性を決めるマーケットをずっと見ていて、「日本で、不思議だな」と思うことは結構ある。今回の東日本大震災でも、「当該国での地震は、その国の通貨の売り」という常識を破って、円は史上最高値（七六円二五銭）を付けた。結局円が地震前の水準へ円安に動いたのは、G7の協調介入を受けた後だった。地震を受けた国の通貨が下がるのは、揺れを資本がいやがりその国から逃げるからである。揺れをいやがった外国人ビジネスマンや海外旅行者はいたのに、なぜか資本は一気に日本に入ってきた。そして今も円高圧力は続く。これほどの被災・原発事故なのに。

不思議なことはまだある。日本の政府債務は既にGDPの二〇〇%に達しようとしている。こんな先進国はどこにもない。債務危機に陥っているヨーロッパの一部の国よりも数字だけを見ると状況は悪いのだ。実際に海外の格付け

機関の中には、日本の国債の格付けを引き下げるところがある。そのときは一瞬円安になり、日本国債は売られるのだが、その後はまたぞろ「円高、日本国債買い」になる。日本の国家債務のレベルを考えれば、いくら日本がデフレだと言ってもこれほどの低金利の持続は、人類史のなかでもまれだ。にもかかわらず、円は買われ続けている。私が大学三年だった一九七一年八月一五日までは、米ドルは実に三六〇円が買えた。今は八〇円アラウンドだ。それでも、日本は貿易収支の黒字をこれまでは出し続けた。

むろん、いろいろな理由は挙げられる。日本の実質金利はまだ高いという指摘は当たっている。実質金利高は、当該国通貨高の背景となり得る。また、日本の国家債務一〇〇〇兆円弱も、日本人が持つ金融資産（二四〇〇兆円以上といわれる）の枠内であって、「日本の国家債務はそのほとんどを日本人がファイナンスしている。対外借り入

住信基礎研究所主席研究員

伊藤洋一

れが多い国とは同列には論じられない」という意見にも一理ある。しかし、ヨーロッパの比較的規模の小さな国が次々と債務危機になり、国内金利の急上昇と通貨価値の著しい低落に見舞われているのを見てみると、「日本は違う国に見えているんだな」と思えるときがある。それはマーケットをずつと見ている人間にとつても、正直「不思議」と映る。

## 英語に訳せない「現場力」

それに関連するのかもしれないのか、最近非常に興味深いことに気がついた。読者の皆さんは「現場力」という言葉をご存じだろうか。四月末のNHKの「クローズアップ現代」に出演した日本銀行の白川総裁も使っていて、NHKはわざわざテロップまで出した。今回の震災に際しても「日本はリーダーシップに欠けているが、現場力はすごい」と言われる時の「現場力」である。

現場力とは、具体的には自分たちの仲間から数多くの死者を出しながらも、懸命に被災した人々の救出・搬送に尽力した警察、消防、それに自衛隊の人々の献身的な努力と現場における力などを指す。それは、「それが仕事」というレベルを超えて素晴らしいものだった。また道路や鉄道の再建に当たった人々の迅速な工事も特筆に値する。東北

自動車道はいち早く通行できるようになり、被災地への物流回復に大いに力があつた。また、東京電力の福島第一原子力発電所では深刻な事故が起きたが、現場で働く東京電力の協力・下請け会社の人々の働きには、「誰かがやらなければ」という気概が感じられる。この原子力発電所に放水した東京消防庁の職員や自衛官の人々など、それぞれ現場の人々の働きは素晴らしかった。それは企業でもいろいろな場で発揮された。

しかし、驚くことに「現場力」に相当する英語がないのだ。この点を筆者に最初に指摘したのは、四月上旬にインタビューさせていただいた種子大手のサカタの坂田社長だ。同社は日本では隠れた国際企業で、海外にも多くの事業所を持ち、そのトップは全員現地の人になってもらっているという先進企業なのだが、海外にも頻繁に出かける同社長は、「現場力」という英語はないと断言した。実はそのことが気になって筆者は、フェイスブックなどでお友達への知恵を借りたし、自分でいろいろ調べているのだが、「これ」という訳語はないことがわかった。端的には表現できないのだ。ということ、日本力（筆者は『日本力 アジアを引っぱる経済・欧米が憧れる文化』を二〇〇五年に上梓した）の一つである「現場力」は、海外の人たちにやや

長い文章で説明しなければならないということなのか。

## 賞賛された日本人

日本人であつて日本にいと、「なんとこの国はもどかしいのか」と思うことが多い。最近の政治情勢もその中に入る。

しかし、海外は日本の意外と別のところに目を付けているのも確かだ。この大惨事の中で、世界が日本を賞賛したことがある。それは、われわれ日本人が地震と津波の後で普通に行つて来たことだ。つまり、パニックにならずに冷静に行動し、他人に対して礼儀正しく、お互いに助けあつた。「東北地方だからできた」という意見もあるが、そうではないと思う。実際に私はそれを震度5強に達した東京でも目にした。店舗に対する襲撃もなく、人々は余震が落ちてくのを静かに待った。犯罪は通常の範囲を出なかつた。道は大渋滞したが、クラクションつしなかつた。これこそ、「日本力」というに相応しいものだ。海外のメディアが教えてくれた。

ニューヨーク・タイムズ紙は、地震から二日後にオピニオンのコーナーに「Sympathy for Japan, and Admiration」(日本への同情、そして賞賛)という元東京支局長リチャード・クリストフの一文を載せた。彼は阪神淡路大震災の取材も経験している。タイトルの通り、地震

という危機に対処する日本人の辛抱強さ、克己力の高さ、そして秩序正しさを賞賛し、「But the Japanese people themselves were truly noble in their perseverance and stoicism and orderliness.」と書いた。政府ではなく、日本の国の民こそこれらの点において誇り高い、と。

また毎日新聞(ネットサイト)によると、中国のネットでは、日本人の対応を冷静と絶賛する書き込みが地震直後から溢れたという。その記事(共同電)によると、短文投稿サイト「ツイッター」の中国版「微博」では、ビルの中で足止めされた通勤客が、階段で通行の妨げにならないよう両脇に座り、中央に通路を確保している写真が、一日一夜に投稿された。「(こうした)マナーの良さは(教育の結果。(日中の順位が逆転した)国内総生産(GDP)の規模だけで得られるものではない」との説明が付き、七万回以上も転載されたという。

## 数量化できない価値の強みと弱み

賞賛のあとは落胆だった。「技術大国」と言われる日本で、原子力発電所の事故が深刻化し、今でも短期での収束に見通しが立たない状況が続いているからである。韓国の新聞は、売らんがための思惑もあるのだから、日本政府の対

応のまずさを指摘し、「無能だ」とまで書いた。

マーケットを見ている人間はこう考える。「では日本の政治力、リーダーシップの弱さは、円相場にとつての弱材料にならないのか」と。あまりよい例ではないかもしれないが、アメリカではレーガン元大統領が狙撃（未遂で終わる）されたとき、米ドルはいったん大きく値を崩した。リーダーの有事は、しばしば通貨安の背景になる。しかし日本ではこれだけ現場力の強さに比べてリーダーシップの弱さが指摘されるのに、なぜ円安の背景にならないのかと思う。もともと、「日本の政治になど誰も期待していない」と自国の財界人にも言われるくらいだから、世界もあまり見えないということか。それにしても、過去四代の首相はきれいに一年前後で交代している。これは誰が見ても、日本にとつての弱点なのにマーケットはそれを見ない。

ではいったいマーケットは何を見ているのか。英語に容易に訳せない「現場力」のすごさを評価しているのか。それとも、「震災後でもパニックにならない日本人の冷静、辛抱強さ、克己心」なのか。はたまた、「日本人だったら、借金は必ず返す。たとえそれが国の借金でも」という安心感だったり、「やっぱり貯金が好きな国の国民は安心でき」と世界の投資家が考えている証拠なのか。

もしそうだとしたら、数字を扱うエコノミストが、海外の投資家の投資行動やマーケットの先行きを見通せないのは当たり前かもしれない。「我慢強さ」や「律儀さ」「貯蓄好き」を数量化できない。政府はだらしがらないが、国民はしっかりしているという見立てでも、トータルな評価は難しい。しかし今回の震災後のマーケットの動きを見ると、そうした数量化できない要因、背景も日本にはあるのかとも思う。

いかんとも表現しがたい海外の、そしてマーケットの日本に対する「評価」のセンチメントが決定的に悪化する懸念はないのか。それはあると思う。マーケットは常に相対論のなかで動く。「そちらの方に資金を動かした方がよい」と判断できる国が出現すれば、そちらに動かす。その場合、日本は「よい円安」ではなく、「悪い円安」に直面する危険性がある。

「もつたいない」もそうだが、容易には翻訳できない「現場力」のような強みを持つ日本。ある意味ナイスだ。しかし、リーダーシップのようなものでも評価してもらえない国になって欲しいし、それがないと国家財政などで迫り来る危機には対処できないのではないかと思うのだが、その兆しはまだ弱い。■